

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22080	事業名	英語教育推進事業		評価分類	A1		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署		
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目	会計	01:一般会計	部	教育委員会事務局
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実				款	10:教育費		
	施策の方向	03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成				項	08:教育研究費	課	学校教育課 教育支援G
重点プロジェクト	04:「未来へのピラ」プロジェクト			目		01:教育研究費			
事業期間	H 19 年度	～	R - 年度	主な根拠法令等		-			

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	<p>学習指導要領では、英語における4技能を系統的・実践的に身に付けさせることが求められており、ALTの配置等により、児童生徒の総合的な英語力の向上と、教員の指導力の向上を図る必要がある。</p>	<p>小学校及び中学校の児童・生徒・教員</p>	<p>教員とALTが協力して、実践的で魅力ある授業づくりを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に付けている。 また、児童生徒の英語力を確実に把握し、その結果が授業改善に活かされている。</p>	<p>JETプログラムや派遣委託によるALTを小中学校に配置するほか、子どもたちの4技能を客観的に把握するため、外部試験を行う。また、小学生が楽しく英語に親しむ機会をつくるため、英語デイキャンプを行う。さらには、教員の英語指導力向上のため、英語教育研修会を行う。</p>

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○ALTの配置(JET・派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語デイキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施	○ALTの配置(JET・派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語デイキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施	○ALTの配置(JET・派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語デイキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施	○ALTの配置(JET・派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語デイキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	<p>年度末時点でALT(JET・派遣委託)は、5名を任用し、各校へ配置した。英語試験については、3中共通テストを中1・2年生対象に1回実施した。また、中2・3年生において、外部試験を実施した。英語デイキャンプを実施し、28名の児童が参加した。教職員対象の英語教育研修会も実施できた。</p>					
計画額	事業費	33,400千円	31,769千円	32,300千円	32,800千円	33,400千円	
		国・県支出金					
		地方債					
		その他	1,050千円	1,029千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円
	一般財源	32,350千円	30,740千円	31,150千円	31,650千円	32,250千円	
決算額	事業費		31,104千円				
	国・県支出金						
	地方債						
	その他		993千円				
	一般財源		30,111千円				
①期間内事業費(R4-7)		131,900千円		②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費	-

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	31,769千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	英語研修会の実施回数	活動	回	計画値	2	2	3	3
				実績値	2			
英語でやりとりできる中学生の割合	外部試験において、CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合	成果	%	計画値	80	80	80	80
				実績値	70			
子どもたちの満足度	外国語活動に対する肯定評価の割合	成果	%	計画値	80	80	80	80
				実績値	72			

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	ALT5名の配置により、児童生徒は、授業や休み時間においてネイティブな英語に触れる機会を持つことできた。英語キャンプでもゲームや発表を通して、英語に親しむことができた。中学校での英語試験や共通テストでは、生徒の総合的な英語力を把握し課題を見つけ、授業改善などにつなげることができた。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
小学校及び中学校の児童・生徒・教員	教員とALTが協力して、実践的で魅力ある授業づくりを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に付けている。 また、児童生徒の英語力を確実に把握し、その結果が授業改善に活かされている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	小学校において「英語チャレンジ」を実施し、「話す・聞く・読む・書く」の4技能を客観的に把握しているが、さらに単元ごとの評価を行うなどの詳しい英語力の実態を把握する必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
	令和5年度で対応する(した)もの 単元ごとの評価を行い、児童生徒の英語力を詳しく把握していく。
	令和6年度以降で対応するもの 令和5年度の実施状況を鑑み、必要に応じて、児童生徒が総合的な英語力を身に付けるための改善・見直しを講じていく。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A			
事業展開	継続(現状維持)			

(履歴)

1次評価者	教育委員会事務局 学校教育課教育支援GL 北川 恵美子
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏